

**残りの者**  
**シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(123号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

**振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一**  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

## 信仰: 小さなフィロソファーの発見

- 大きな地震や大雨で、何か落ち着かない5月でしたが、皆さまにはお変わりございませんか。石巻も気持ちの良い五月晴れが少なく、日中と夕方の寒暖の差が激しく、なかなか体がついて行かない日々を過ごしております。
- それでも、季節は確実に初夏へと移り、庭の草花も今年も美しい姿を楽しませてくれています。連休過ぎには郊外の田圃もあつという間に淡い緑の絨毯に変わりました。
- 支援活動中のこと、お腹に第4子妊娠中の主婦が、小さな女の子とそのお兄ちゃんを連れて支援物資の要請に来了。
- その2人の天真爛漫な幼子を見た妻は、その経済的な環境では持っている特性が育てられないと危惧し、ピアノを持っていないけれど、音楽を知る知る喜びと学ぶことの楽しさを伝えたいと月謝無しで指導してきました。
- レッスン室には、子供の本や親に読んで欲しい本を沢山置いてあります。リコーダーやピアノの演奏ができるだけでなく、様々な本を読み、疑問を持ち、考える力が知らず知らずのうちにたつようになるの願いからです。
- 震災の年に生まれたその末娘も今年小学生となり、母親の要望でピアノレッスンを受けることになりました。夢中で本を読んでいる上の兄と姉の姿に触発されて、その子も率直に様々な問いを妻にするようになりました。
- 字には書き順があることを知ったこの子は、漢字に強い関心を持ち、道路で見つけた「止」という字に関心を持ち、何と読むか、その書き順は？と質問してきました。そして「人」という漢字を「丿」「ノ」の順に書いているのが間違っていることを教えられ、その「人」を書きながら、何かを発見したように「あ！そうか！これは倒れないように助けているんだ！」と言ったのです。
- 字源を引けば、「人」という漢字は人間の姿を横から見た象形文字から生まれたと説明されています。辞書には生物学的とか社会学的とかの観点では説明されていますが、改めて「人とは何か」を考えると、私たちは当然のことと認識しているために、それを納得する形ではなかなか説明できません。
- 聖書では、アダムを土から造られた神は、「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」(創世記2/18)と言われて、エバを造り、家族を立ち上げ、そこから「人間(じんかん)」が出来上がってきた経緯を説明しています。
- そして、神の命令に背いた人間に罪が入り、死が入ってきました。その神と人間の壊れた関係を修復するためにイエス・キリストを「人の子」の姿でこの世に送り、その罪の贖いの子羊として十字架に捧げられました。
- このような人間同士が、愛によって支え合うことの大切さを学ぶ訓練場所として、教会が与えられているいます。
- この世の知識が増えて、全てが当然と考えがちな私に、改めてこの幼子のように身の回りの一つ一つを新鮮な驚きを持って見ることの大切さを教えてくれた出来事でした。

### 先月の多くの恵みから

- ① 5/23(水)の定例祈り会の日には会員全員でオアシス教会で持たれた川上直哉師(石巻栄光教会牧師)の導きでの第2回「ゆるしとは何か」の学び会に出席しました。今回は「ゆるすこと、祝福すること」を主題に、最近起こったインドネシアやアメリカでのテロやヘイト事件による殺人へのクリスチャンの対応についてゆるしの観点から深い学びができ感謝しました。
- ② 5/19故大平あつ子姉の御主人が訪問して下さい、天に召



あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。ヨハネ15/17

- される前の家族との和解の嬉しい知らせと葬儀について心にかかっておられたことを率直に話して下さい、その重荷を下ろして頂けるとも恵まれた時間を持つことが出来ました。
- ③ 5/18-20にわたり被災地への熱き思いを持っておられる上原権治兄が仮設に残っておられる方の訪問とICCCでのGon Concertを持って下さいました。
- ④ 先に永井敏夫師より連絡のあった長野県でHESED SCHOOLを開校しようと準備されている金師とスタッフが趙師ご夫妻と共に5/17に訪ねて下さって、その主にある熱き思いを伺い、共に神の栄光が現されるようにと祈り合いました。
- ⑤ 今月は4月に訪問下さった濱中さんははじめ多くの方から励ましのメールや手紙、新井勝太兄、Dr.木下夫妻からの献品、鈴木基行夫妻、ベック・由美子姉、藤井 齊兄からの継続的な献品でこの群の支援活動と教会活動が支えられ感謝です。
- ⑥ 5/12に地元紙石巻日々新聞のコラム「潮音」に第2回分(毎月1回全6回)が掲載されました。証しが用いられるように。
- ⑦ 6/1には神保 幸夫妻、6/2には三浦正行先生がカナダの友人と訪問予定、6/3の礼拝には Ritsuko Narita Larsonご家族が出席されます。石巻滞在中は被災者を訪ねて下さいませ。
- ⑧ 5/22に斎藤照身兄より、見事な季節の野菜ワラビを12kgを送って頂き、兄姉と感謝して堪能するとともに、近所にもお裾分けができて喜ばれました。

### ■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① ガンと闘っている今野かつ子さん、手術後の千葉真理子姉/藤井 齊兄と骨折した木下恵美子夫人の回復のために。
- ② 地域より求道者が起こされるように。
- ③ Dean師ご夫妻の働きと7/15のGon Min チームのThe Bridge Concertのために。
- ④ 平塚さんのために。

### 群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

### 信仰を詠う

**6月 山の幸**

さざ波の寄するがごとく落葉松の  
萌ゆる山道五月に浸る  
汚染からのがれし奥羽の山の幸  
山菜食ばむ罪人の位置  
眠ってはいけないという捕われの  
呪文が回わるぜんまいの渦



**阿部 八重子**  
東北の五月は山萌ゆる新緑の季節、82才の誕生日、月山、鳥海山の山容を頂き乍ら翌日玉川湖の林道を走る。自然の恵みを存分に戴きました。



5/23オアシスCで「赦しとは何か」の学び会 4/27宮城Cでの追悼記念会準備委員会 5/17HESD SCHOOLのスタッフ訪問 4/24専修大での復興ボランティア学聴講



5/7 仙台の信仰の友人イサ姉訪問 5/7 S. 類君家族を訪問 5/4 元同僚宅へ20年振りの訪問 5/18-20 Gonさん石巻で支援Concert 5/19早天祈禱会を祈りの家で



5/13 教会より母の日プレゼント 5/10 コーラス花の練習の様子 5/13ほっと・Timeでテレサの信仰を 5/14 楽しい手芸の会の活動 CGNTVのアンテナ修復で番組楽しむ

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

### Impressed Person 4 Dean Bengtson (2)

#### 神の遣わされた「しもべ」

石巻「祈りの家」代表/阿部 一

4月号に、2011年の東日本大震災におけるディーン師との出会いと先生が新館・浦屋敷地区で本格的な災害支援活動を開始したこと、さらにこの地に自宅を借り、その後この地の被災者のための心のよりどころとしてコミュニティーセンター「石巻 希望の家」を立ち上げるに至った概略を紹介した。

この地区では、1.8m～2mの何回もの津波の襲撃で、石巻工業港から500mの住宅は全壊、そこから600m位の家屋は場所によって全壊、残った多くの住宅は1階が破壊され、ヘドロで覆われたために住民は2階か避難所で生活していた。全壊した建物はほとんど自衛隊等の重機によって撤去されていたが、側溝・道路、骨組みが残っている家屋の内外は、人間の手によるヘドロや流れ込んだ大小のゴミの撤去と清掃が求められていた。これらの作業は機械では出来ず、多く人の手を要するものであった。

電気が最初に復旧したので、ボランティア協力の問い合わせには携帯電話とコンピュータでのメールで行うことが出来た。このような緊急時において、他の協力が得られるのは、それまでの私たちの人間関係がどれだけ信頼を得られていたかが鍵である。

ディーン師の教会や宣教師との関係の幅広さが、沢山の国内外のボランティアと多くの支援団体やアーティストの協力を得ることが出来た原因であった。そして、一度ディーン師の下でのボランティアとして来られた方々がその後も継続して支援して下さったのは、ディーン師の人間的魅力とその奉仕の中で真摯に神に仕える彼の姿を見たからであった。リンダさんの表に出ない強い支えがその陰にあったことは言うまでもない事である。

彼の家屋の床下や庭のヘドロ上げと部屋の清掃は徹底していた。例えば、多くの支援団体は部屋の板敷きを電気のコギリで切り抜き床下のヘドロも大雑把の除去で済ませていたが、ディーン師はその板敷きを傷つけないように全部剥がし、それを洗浄し、リフォームの際に使用できるように配慮した。床下のヘドロも完全



に除去し、壁板をも剥がして、汚水が染みこんだ断熱材も撤去した。上部の柱や鴨居などはその塵をも払い、パワーウォッシャーで洗浄消毒してから乾燥させた。それから新しい断熱材を入れ直しタイガーボードを張った。直ぐに大工が内装に取りかけられる状態までの支援である。それは徹底的に相手の立場に立つての手を抜かない作業であった。

その合間に、ディーン師は空き地を借りて、テントと椅子を準備し、彼を慕って奉仕に来てくれた多くのゴスペルシンガー・フラダンサー・歌謡曲歌手・ギターリストなどの演奏会や一流シェフによる食事会をそこで催した。その時、ディーン師は必ずコーヒーやジュース等の飲み物の他、かき氷・様々なクッキー（特にリンダさん手作りのチョコレートブラウニーはいつも準備された）を提供された。私が担当した一人一人の支援申請による物資の引き渡しの時も同じように会場をセッティングされた。それは、単に物資支援やコンサートでの癒やしの場だけではなく、壊れている地域の人間関係の修復の場とする配慮であった。この場であつての同僚や同級生などの再会との喜びを生み、近所の方々との親しい人間関係が新たに生まれていった。

忘れられないことがある。震災1年目の冬、2階だけがどうにか使用可能の上釜会館でコンサートをやることになったが、電気は発電機を準備したが暖房がない。雪が降った寒い当日の朝、その会館に行ってビックリした。地区民が私たちを通して支援された一家に1台のストーブを各自が持ち寄って既に部屋を暖めていてくれたのである。ご夫妻がどれだけ地区民に受け入れられているかの証拠であった。

その後、先生ご夫妻は自宅の道路を挟んだオーナーの大工であるお父さんが仕事の合間にリフォームされていた家を、忍耐を持っての交渉で借りられた。その家のヘドロ上げもされていたが、その決め手はやはり、ディーン師ご夫妻の自分の利益を求めるのではなく、被災者にどこまでも寄り添って行きたいとの熱き思いと先生方の実際の奉仕の働きを見てきたからこそ開かれた道であった。そして、この家を地域のための「コミュニティー・ハウス：希望の家」として立ち上げた。1階は2間をぶち抜いて（その大工さんが先生の要望を聞いて隔ての壁を除いてくれたのである）、音響装置も準備されて小さなライブ・ハウスとなった。2階は3部屋にベッドが備えられておりゴスペルシンガーやボランティアが宿泊場所を心配せずに奉仕できるようとの配慮である。

真に神に仕える人は、主イエス・キリストに倣い己を捨て徹底的に仕える人である。この神の愛を当たり前のように体現されている先生との出会いは、私たちへの神の大きな恵みである。感謝！